

2020 安品安発第 2 号
2020 年 4 月 17 日

青森県危機管理局
原子力安全対策課長
安田 浩 殿

日本原燃株式会社
専務執行役員
安全・品質本部長
武井 一浩

「青森県原子力安全対策検証委員会報告を受けた県の確認・要請に
対する対応等について」（2019 安品安発第 16 号）の訂正について（報告）

2019 年 4 月 25 日に報告した「青森県原子力安全対策検証委員会報告を受けた県の確認・
要請に対する対応等について」（2019 安品安発第 16 号）について、記載の誤りがございま
したので、別紙のとおり訂正いたします。

以上

別紙 青森県原子力安全対策検証委員会報告を受けた県の確認・要請に対する対応等につ
いて（2019年3月末現在）正誤表

別紙 青森県原子力安全対策検証委員会報告を受けた県の確認・要請に対する対応等について（2019年3月末現在）正誤表

誤（別紙 P.2）	正（別紙 P.2）	備考
<p>動レベル)に基づいた通報訓練を行った。また厳冬期等の過酷環境における訓練として、構内道路において送水ホースの展張作業訓練を実施した。</p> <p>○2019年2月22日の交流電源喪失時の対応訓練では、電源車が使用できない条件を想定し、高レベル濃縮廃液の貯槽等を冷却する冷却コイルへの注水のための建屋内のホース設置訓練を実施した。</p> <p>○交流電源喪失時の対応に関する訓練については、個別訓練として2019年3月3日に再処理施設構内全域での屋外ホース展張、送水訓練を実施した。</p> <p>○訓練時は訓練参加者以外の社員による評価者を配置し、客観的な評価を実施するとともに、当事者による振り返りを行い、課題・反省点を抽出した。</p> <p>②今後の対応</p> <p>○今後も訓練実績を踏まえ、総合訓練、個別訓練を計画・実施し、リスク管理、危機管理能力を継続的に高める。</p> <p>○訓練に対するPDCAサイクルの展開として、訓練結果を評価し、反省事項や改善事項等を次回訓練に反映していく。</p> <p>(3) 冬期対策等の強化</p> <p>①この期間の取組み状況</p> <p>○防火水槽等の凍結防止対策は、2011年11月に完了している。</p> <p>○電源ケーブル小屋の補強対策は、2011年10月に完了している。</p> <p>②今後の対応</p> <p>○今後も厳冬期訓練において凍結対策器具を活用していく。</p> <p>(4) 人材育成及び技術力の強化</p> <p>①この期間の取組み状況</p> <p>○長期計画に基づき、保安教育・部門教育・シミュレータ訓練等により各部門の社員が必要とする教育・訓練を2018年度の基本計画及び個別計画に沿って実施し、専門的な技術の習得強化を図り、人材育成に取り組んだ。</p> <p>○当直運転員については、2018年度の教育・訓練計画に従い教育・訓練を実施した。主な事例は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源喪失時の対応訓練（67回） ・異常時及び平常運転時のシミュレータ訓練（58回） <p>また、体系的なOJT教育訓練計画により教育訓練を実施した。</p> <p>○各施設の特徴に応じた個人別の育成計画に基づき、必修実技訓練等による技能の習得や設備点検を通じた必修技術力の強化など必要な教育、研修等を実施している。</p> <p>○先行施設を有する国内外の事業者と以下のとおり情報交流を行い、社員の技術力強化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏国 ORANO社とは、主に同社の技術を導入している設備に関する情報共有を 	<p>動レベル)に基づいた通報訓練を行った。また厳冬期等の過酷環境における訓練として、構内道路において送水ホースの展張作業訓練を実施した。</p> <p>○2019年2月22日の交流電源喪失時の対応訓練では、電源車が使用できない条件を想定し、高レベル濃縮廃液の貯槽等を冷却する冷却コイルへの注水のための建屋内のホース設置訓練を実施した。</p> <p>○交流電源喪失時の対応に関する訓練については、個別訓練として2019年3月3日に再処理施設構内全域での屋外ホース展張、送水訓練を実施した。</p> <p>○訓練時は訓練参加者以外の社員による評価者を配置し、客観的な評価を実施するとともに、当事者による振り返りを行い、課題・反省点を抽出した。</p> <p>②今後の対応</p> <p>○今後も訓練実績を踏まえ、総合訓練、個別訓練を計画・実施し、リスク管理、危機管理能力を継続的に高める。</p> <p>○訓練に対するPDCAサイクルの展開として、訓練結果を評価し、反省事項や改善事項等を次回訓練に反映していく。</p> <p>(3) 冬期対策等の強化</p> <p>①この期間の取組み状況</p> <p>○防火水槽等の凍結防止対策は、2011年11月に完了している。</p> <p>○電源ケーブル小屋の補強対策は、2011年10月に完了している。</p> <p>②今後の対応</p> <p>○今後も厳冬期訓練において凍結対策器具を活用していく。</p> <p>(4) 人材育成及び技術力の強化</p> <p>①この期間の取組み状況</p> <p>○長期計画に基づき、保安教育・部門教育・シミュレータ訓練等により各部門の社員が必要とする教育・訓練を2018年度の基本計画及び個別計画に沿って実施し、専門的な技術の習得強化を図り、人材育成に取り組んだ。</p> <p>○当直運転員については、2018年度の教育・訓練計画に従い教育・訓練を実施した。主な事例は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源喪失時の対応訓練（47回） ・異常時及び平常運転時のシミュレータ訓練（58回） <p>また、体系的なOJT教育訓練計画により教育訓練を実施した。</p> <p>○各施設の特徴に応じた個人別の育成計画に基づき、必修実技訓練等による技能の習得や設備点検を通じた必修技術力の強化など必要な教育、研修等を実施している。</p> <p>○先行施設を有する国内外の事業者と以下のとおり情報交流を行い、社員の技術力強化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏国 ORANO社とは、主に同社の技術を導入している設備に関する情報共有を 	<p>備考</p> <p>・1年分の訓練回数を誤って記載していたため下期分のみ に訂正</p>